

令和3年度
ふるさと島根寄附金活用事業成果報告書
～令和3年度寄附金を活用した事業

人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる

島根*創生
SHIMANE SOUSEI

(問い合わせ先)

〒690-8501 松江市殿町1番地

島根県政策企画監室

電話番号：0852-22-6840

FAX番号：0852-22-6034

電子メール：kifu@pref.shimane.lg.jp

～目 次～

1	活用成果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	-1-
2	寄附金を活用して実施した事業の成果・・・・・・・・	-3-
	（1）新型コロナウイルス感染症対策に関する事業・・・・・・・・	-3-
	（2）産業の振興に関する事業・・・・・・・・	-4-
	（3）自然環境の保全に関する事業・・・・・・・・	-6-
	（4）医療・福祉の充実に関する事業・・・・・・・・	-9-
	（5）教育・文化の振興に関する事業・・・・・・・・	-13-
	（6）子どもの読書活動の促進に関する事業・・・・・・・・	-17-
	（7）竹島の領土権の確立に関する事業・・・・・・・・	-20-
	（8）森林の保全及び整備に関する事業・・・・・・・・	-23-
	（9）防災対策の推進に関する事業・・・・・・・・	-24-
	（10）移住・定住の促進に関する事業・・・・・・・・	-27-
	（11）結婚・出産・子育ての支援に関する事業・・・・・・・・	-30-

1 活用成果の概要

寄 附 メニュー	寄附を活用した 事業費（千円）	令和2年度 寄付額（円）	令和3年度 寄附額（円）
新型コロナウイルス感染症対策	174,717千円	14,068,223円	11,337,682円
産業の振興	2,703千円	1,863,500円	1,638,000円
自然環境の保全	5,891千円	3,170,000円	3,364,000円
医療・福祉の充実	4,963千円	3,970,000円	3,133,000円
教育・文化の振興	2,222千円	2,032,000円	3,160,000円
子どもの読書活動の促進	2,213千円	1,630,000円	2,150,000円
竹島の領土権の確立	6,718千円	4,542,905円	9,100,905円
森林の保全及び整備	4,022千円	623,000円	625,000円
防災対策の推進	997千円	530,000円	969,000円
移住・定住の促進	52,795千円	340,000円	610,000円
結婚・出産・子育ての支援	593千円	1,361,500円	※2,640,000円
指定なし	—	7,040,000円	7,861,111円
合計	257,834千円	41,171,128円	46,588,698円

いただいた寄附は、ふるさと島根基金に積立て、前頁のとおり令和3年度の事業に一部を活用させていただきました。

お寄せいただいた寄附が目標額に達しなかった場合は、これまでに積み立てた基金から不足額を補い、目標額を超えた場合は、次年度以降に活用します。

★令和3年度は1,836件、46,588,698円の寄附をいただきました。

※「結婚・出産・子育ての支援」分の一部は、「医療・福祉の充実」、「子どもの読書活動の推進」の事業と併せて活用させていただきました。

※「事業の指定なし」分は、「移住・定住の促進」に配分して活用させていただきました。

2 寄附金を活用して実施した事業の成果

(1) 新型コロナウイルス感染症対策に関する事業

【対象事業】

医療従事者への危険手当補助事業

【事業の成果及び事業費】

医療従事者への危険手当補助事業

新型コロナウイルス感染症患者の治療等に従事した医療従事者へ手当を支給した医療機関に対して、その手当の一部を助成しました。

事業費：174,717千円

新型コロナウイルス感染症患者の治療等に従事した医療従事者へ手当を支給した医療機関に対して、その手当の一部を助成することにより、対象医療機関における医療従事者の処遇向上に寄与しました。

【補助実績】

補助事業者：23医療機関

合計補助額：174,717,000円

※対象医療機関

- ・病床確保計画における入院医療機関
- ・感染症指定医療機関
- ・その他知事が適当と認めるもの

(2) 産業の振興に関する事業

【対象事業】

- ① 出雲コーチン種生産対策事業
- ② 島根県グローバル人材育成支援事業

【事業の成果及び事業費】

- ① 出雲コーチン種生産対策事業

「出雲コーチン」の原種保存と特産化に向けた取組を実施しました
事業費：1,000千円

在来種鶏「出雲コーチン」を活用した地鶏肉の生産体制を確立しました。

(1) 令和2年度までの成果

- ・ 生産者、JA、出雲市、出雲農林高校、畜産技術センターで出雲コーチン利用促進協議会を組織しました。
- ・ 原種の保存に必要な施設整備しました。
- ・ 地鶏肉生産に向けた交配の検討をしました。

(2) 令和3年度の成果

(i) 「出雲コーチン原種」の増殖

- ・ 発育の良い原種鶏を選抜し、新たに6羽確保しました。(合計30羽)
- ・ 鳥インフルエンザ等から守るため3名に分散配布して、飼育する体制を構築しました

(ii) 地鶏肉生産のための交配を選抜

- ・ 交配試験の結果、肉質・肉量に優れる2種を選定しました。
 - ア) ロードアイランドレッド×出雲コーチン
 - イ) 黄斑プリマスロック×出雲コーチン
- ・ 交配試験を継続中(令和4年度中に1種に決定)

(iii) コマーシャル鶏飼育方法の検討

- ・ 飼養衛生管理(疾病予防方法等)の確立をしました。

(iv) コマーシャル販売

- ・ 出雲市内の鉄板焼き店で230羽を提供しました。



【事業の成果及び事業費】

② 島根県グローバル人材育成支援事業

大学生等の県内企業でのインターンシップや海外留学等を通じて、グローバルな人材を育成しました。

事業費：1,703千円

島根県内企業でのインターンシップと海外留学を通じて、卒業後、県内産業・地域活性化に貢献するグローバルな人材を育成し、県内への定着を図ることを目的として、県内外の高等教育機関に通う学生を選定し派遣を行っています。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により採用中止となったため、寄附金は不要となりました。

(3) 自然環境の保全に関する事業

【対象事業】

- ① 宍道湖・中海賢明利用推進事業
- ② 生物多様性の普及啓発事業

【事業の成果及び事業費】

- ① 宍道湖・中海賢明利用推進事業

宍道湖・中海の湖沼環境の保全再生、賢明な利用（ワイズユース）、環境学習、交流、普及啓発事業を実施しました。

事業費：5,039千円

自然豊かな宍道湖・中海への関心を深めてもらうとともに、水質保全等の環境意識を高め、ラムサール条約の柱である、保全再生、賢明な利用（ワイズユース）、環境教育・交流・普及啓発の事業を実施しました。

(1) 水辺に親しむ環境学習・普及啓発事業

(i) 湖沼環境モニター調査

周辺住民の参加により、人の五感で宍道湖・中海の評価を行う「湖沼環境モニター」事業を実施しました。（モニター数85名、2団体）



(ii) 宍道湖・中海流入河川調査

学校や公民館等において、小中学生に流入河川の水質等の調査を行ってもらい、学習発表会やポスター作成などの優秀な取り組みを行った団体を表彰しました。（参加団体 44）

(2) ラムサール・大型水鳥啓発事業

(i) ラムサールイベント

中海周辺をサイクリングやランニングで自由に巡る「中海バイク&ラン」を16日間のスタンプラリー形式で行いました。(参加団体数35)



(ii) 大型水鳥を活用した広域ネットワーク支援事業

トキ・コウノトリが生息できるビオトープづくりの学習会や、親子体験イベント「田んぼで生きもの探し」を県、出雲市・雲南市及び民間団体などで構成する協議会の事業として開催しました。



【事業の成果及び事業費】

② 生物多様性の普及啓発事業

豊かな自然を保全するため、生物多様性の普及啓発を実施しました。

事業費：852千円

しまねの豊かな自然を保全するため、県民の自然への関心向上及び自然保護活動の促進に繋げるため、生物多様性の普及啓発を実施しました。

・県民の自然への関心度を高めるためには、実際に山や野に足を運び自然観察を行うことが重要です。また、何度も自然観察を繰り返し、その度に新たな「気づき」を重ね、愛着を持つことが、関心だけにとどまらず、保護活動に繋がっていく第1歩と考えました。

・上記の前提を踏まえ、令和3年度は、県立三瓶自然館サヒメルの学芸員（自然観察指導員）監修の元、「見つけよう自分だけの自然観察フィールド」と題したリーフレットを作成しました。

・リーフレットでは、自然観察のススメとして五感を使った自然観察の手法や県内に設定する自然観察路を紹介するなど県民の方が少しでも関心を高め、実際に足を運んで自然観察ができるように工夫を行いました。（県内の小中学校や道の駅など県内全域に配布しました。）



・本リーフレットは、全国で自然観察会の開催や自然観察指導員研修を実施し、会員2万人以上の公益財団法人自然保護協会の担当者によれば、県が主体となって自然観察手法紹介したリーフレットを作成した事例はあまり聞いたことはなく、好事例としてメールマガジン等でのPR等も検討したいとの評価をいただきました。

・県立三瓶自然館サヒメル（今回監修していただいた）学芸員もこれまでこうしたリーフレットを県が主体となって作成したケースはなく、親子を含めて自然に触れてもらう良いきっかけになればということで監修として協力したとの評価をいただきました。

(4) 医療・福祉の充実に関する事業

【対象事業】

- ① がん関連図書整備事業
- ② がん患者社会生活応援事業（医療用ウィッグ等購入経費助成事業）
- ③ 障がい者施策推進事業（ヘルプマーク普及推進事業）
- ④ 障がい者芸術文化活動支援事業

【事業の成果及び事業費】

① がん関連図書整備事業

がんに関する正しい知識の普及を図るため、がんの一般知識、闘病記等がんに関連する図書を購入し、県立図書館に設置しました。

事業費：130千円

がんに関する知識の普及を図るため、がんの一般知識、闘病記、小児・AYA世代に関する図書等を購入し、県立図書館に設置しました。

令和2年度より、寄附金の活用を開始しました。寄附金の活用により、がんの最新情報が掲載された新刊図書を購入し、9月の「がん征圧月間」に県立図書館ロビーにて展示を行う等、がん情報を広く閲覧いただくことが可能になりました。

【内訳等】

冊数 32冊

補助額 130,000円



【事業の成果及び事業費】

② がん患者社会生活応援事業（医療用ウィッグ等購入経費助成事業）

がん患者の社会参加を促すため、医療用ウィッグ等の購入費を助成しました。

事業費：2,300千円

がん治療によって乳房切除や脱毛などを余儀なくされた患者さんに対し、補整下着及び医療用ウィッグの購入費を助成することで外見変化に関する悩みを軽減し、社会生活参加を促します

昨年度比19件増の119件の助成を実施しました。県のホームページや県内のがん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターなどで広報を行い、幅広い年代の方にご活用いただきました。

【内訳等】

件数 119件（ウィッグ 101件、補整下着 18件）

補助額 2,075,000円

※2万円を上限とし、購入金額の1/2を助成

事業初年度（H29年度）と比較すると申請件数は2倍以上となっており、助成を受けられた方からは「前を向いて歩んでいける」「とても助かる」などのご感想をいただいています。

この事業が広まるとともに、がん患者の就労等の社会参加の促進や療養生活の質の向上に寄与していると考えています。



【事業の成果及び事業費】

③ 障がい者施策推進事業（ヘルプマーク普及推進事業）

内部障がいや難病等外見からは援助や配慮を必要としていることが分かりにくい方が周囲に配慮を必要としていることを知らせるための「ヘルプマーク」を交付・普及を行いました。

事業費：2,033千円

外見からは援助や配慮を必要としていることが分かりにくい方が、周囲に配慮を必要としていることを知らせるための「ヘルプマーク」の普及を図り、必要とされる方に交付しました。

- ・市町村や公共施設等に掲示するポスターを作成し、ヘルプマークの周知を図りました。
- ・障がいの特性や必要な配慮を学び実践する「あいサポート運動」の、啓発冊子にヘルプマークの意味や必要な援助を盛り込み、ヘルプマークへの理解を促進しました。

【内訳等】

ヘルプマーク交付数 527枚

あいサポート研修回数 193回



【事業の成果及び事業費】

④ 障がい者芸術文化活動支援事業

障がいのある方々の取組を広く紹介するため、障がい者アート展作品集を制作しました。

事業費：500千円

障がい者の個性と能力の発揮及び社会参加を推進することができる文化芸術活動支援の体制づくりの一環として、作品集を作成しました。

作成部数】 1,000 部【配布箇所】 出展者、事業所等

- ・令和2年7月に新設した、島根県障がい者文化芸術活動支援センターを広く知ってもらうための広報ツールとして活用しました。
- ・障がい者の作品や障がい者芸術文化活動に取り組んでいる事業所・団体等の情報が掲載されているため、県内の芸術文化活動を紹介するツールとして、関係機関等の情報共有に活用しました。
- ・文化芸術作品のアーカイブとして活用しています。



(5) 教育・文化に関する事業

【対象事業】

- ① 県所蔵の美術作品を活用した教育文化振興事業
- ② 世界を目指すアスリート支援事業

【事業の成果及び事業費】

- ① 県所蔵の美術作品を活用した教育文化振興事業

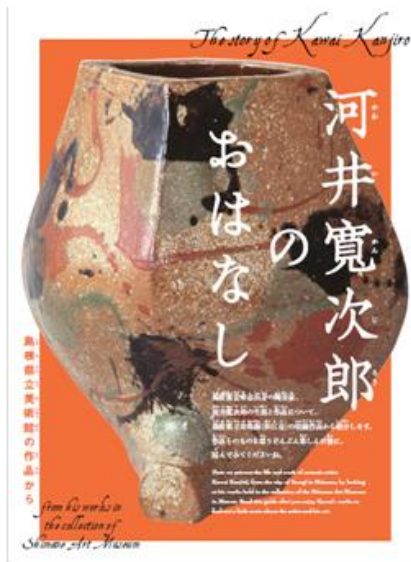
島根県出身の陶芸作家、河井寛次郎を中心に、県が所有する作品等をとおして芸術文化への理解を深め、「島根の宝」として継承する意識を醸成します。

事業費：1,172千円

島根県安来市出身の河井寛次郎は、世界的にも評価された郷土を代表する陶芸作家です。島根芸術文化センターで展覧会を開くにあたり、河井寛次郎作品を紹介するガイドブックを作成し、郷土の作家・作品の幅広い層への周知と理解を深める事業を実施しました。

(成果物)

作品鑑賞ガイド「河井寛次郎のおはなし」



- 制作部数：20,000部
 - 配布先：益田・鹿足・一部浜田の小中学校、来館者（希望者）
- ※残数は島根県立美術館にて継続的に活用予定

(概要)

- 河井寛次郎の初期から晩年までの仕事を作風の変化とともに辿る構成であり、作品画像を多分に使用して、見た目にも読み手の興味を引きつける内容を心掛けて制作しました。
- 文章全文の英訳および振り仮名を付けることで、子どもや外国人にも読みやすいものとなるよう配慮しています。
- 美術に親しみのない方が読んでも楽しめるようキャラクター化された河井寛次郎が作品解説を行うといった工夫を施しました。

【事業の成果及び事業費】

②世界を目指すアスリート支援事業

国際大会で活躍できる選手を育成するため、全国規模の大会で活躍している選手とその指導者の県外遠征費等を助成しました。

事業費：1,050千円

全国トップレベルで活躍している島根県のアスリートが世界を舞台に活躍するために更なるレベルアップを図るため国内や国外での大会や遠征に参加するための経費を支援しました。

【内訳】

対象選手：8名

県外遠征：8回（延べ）、海外遠征：5回（延べ）

対象選手と昨年度主要大会成績

- 細木咲良（テニス・原商） | TF国際大会（ジュニア）1位



- 福田大和（柔道・平田高校3年）グランプリ ポルトガル大会 5位



※スペインジュニア大会（今年5月）で優勝した時のもの

- 羽田向日葵（ライフル射撃・立正大学湘南高校3年）
全国高校ライフル射撃選抜大会 1位（日本新記録樹立）



- 小鏡亮太（カヌー・島根中央高校3年）
世界ジュニアカヌースプリント大会 出場
全国高校総体カヌー競技カヤックフォア200m 1位
- 行田朋晃（カヌー・島根中央高校3年）
世界ジュニアカヌースプリント大会 出場
全国高校総体カヌー競技カヤックフォア200m 1位

- 齋藤哲一（カヌー・島根中央高校3年）
世界ジュニアカヌースプリント大会 出場
全国高校総体カヌー競技カヤックフォア200m 1位

- 三島まりあ（カヌー・出雲農林高校2年）
全国高校総体カヌー競技カヤックペア200m 1位



- 片伊勢志哉（カヌー・出雲農林高校2年）
全日本カヌースプリントジュニア男子U17
カナディアンシングル500m 1位



(6) 子どもの読書活動の促進に関する事業

【対象事業】

- ① 学校図書館活用教育図書整備事業
- ② ビブリオバトル島根県大会開催事業
- ③ おすすめしたいこどものほん事業

【事業の成果及び事業費】

①学校図書館活用教育図書整備事業

授業等で使用する「学校図書館活用教育図書」を更新しました。

事業費：437千円

県立図書館が県内すべての市町村に寄託している「学校図書館活用教育図書」について、内容の古くなった図書や、教科書の改訂で新たに必要となった図書等の買換えや補充を行いました。

令和3年度は各市町村からの要望に応じて、17市町村の公共図書館等110冊の図書を寄託しました。（2町村は希望なし）

また、島根県立図書館にも30冊の図書を受入し、直接来館や市町村の公共図書館を通じて、学校や個人に貸出できるように整備しました。

これによって、学校での図書館活用教育が一層充実するとともに、県内の公共図書館と学校図書館の連携が深まりました

- ・購入冊数・・・140冊
- ・事業費・・・437千円

【購入冊数内訳】

松江・・・7冊	浜田・・・6冊	出雲・・・5冊
益田・・・6冊	大田・・・5冊	安来・・・8冊
江津・・・5冊	奥出雲・・・6冊	飯南・・・6冊
川本・・・6冊	邑南・・・6冊	津和野・・・7冊
吉賀・・・5冊	海士・・・7冊	西ノ島・・・10冊
知夫・・・9冊	隠岐の島・・・6冊	県立図書館・・・30冊

【事業の成果及び事業費】

② ビブリオバトル島根県大会開催事業

高校生の読書活動を推進するため、生徒がお互いに本の魅力を紹介する機会を創出します。

事業費：156千円

言葉の力や表現力によって、高校生たちが互いに本の魅力を紹介し、最も読みたくなった本を参加者の投票で決定するビブリオバトルの島根県大会を開催しました。

県内の高等学校から10名の高校生が発表者として参加し、全国高等学校ビブリオバトル2021島根県大会を開催しました。

当日は発表者それぞれが、読んで面白いと思った本を紹介し、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準に、観戦者や運営スタッフを含む参加者全員の投票で「チャンプ本（最多票を集めた本）」を決めました。

この大会を通じて、開催の趣旨である「人を通じて本を知る。本を通じて人を知る。」というビブリオバトルの理念に基づき、読書活動を推進し、言語能力・コミュニケーション能力の向上を図る機会とすることができました。

【開催概要】

日時：令和3年12月11日（土）13:00～16:10

場所：くにびきメッセ 601会議室

大会参加者：85名（発表者、運営スタッフを含む）



【事業の成果及び事業費】

③ おすすめしたいこどものほん事業

図書館司書が選書した「おすすめしたいこどものほん」の整備をしました。

事業費：1,620千円

推薦図書リスト「おすすめしたいこどものほん」に掲載する図書を購入し、市町村図書館等への貸出や巡回展示を実施しました。

- 推薦図書リスト「おすすめしたいこどものほん」（乳幼児向け、小学生向けの2種類）に掲載する本の選書、並びに図書の購入を行い、県民や図書館、学校等の団体に貸出を行いました。
- 市町村図書館、幼稚園、読み聞かせボランティア等の活動に役立てるために、県立図書館地域支援室と西部読書普及センターの2箇所にもリストに掲載された図書を整備し、市町村図書館で巡回展示を4回実施しました。
- 県立図書館では7月から9月の3か月間、子ども室前のスペースで「おすすめしたいこどものほん2021」の資料展示を行い、夏休み中の子どもたちに貸出・利用されました。

【購入冊数内訳】

- 県立図書館子ども室 選書・貸出用 304冊
- 県立図書館地域支援室 貸出・巡回展示用 314冊
- 西部読書普及センター 巡回展示用 149冊

合計767冊

(7) 竹島の領土権の確立に関する事業

【対象事業】

竹島の領土権の確立に関する事業

【事業の成果及び事業費】

竹島の領土権の確立に関する事業

竹島問題の解決に向け、国民世論の啓発を図るため、広報啓発活動を実施しました。

事業費：6,718千円

(1) 「竹島問題を考える講座」の開催

竹島問題への理解を深めるため、竹島問題の研究者等を講師に招き、一般向けの講演会を3回開催しました。

	講 師	会 場
第1回	県竹島問題研究顧問 升田優氏	益田市
第2回	県竹島問題研究特別顧問 下條正男氏	隠岐の島町
第3回	県竹島問題研究顧問 藤井賢二氏	松江市



(2) 広報啓発資料等の作成

竹島問題の啓発を図るため、啓発資料や啓発用グッズ等を作成し配布しました。

- ・啓発ポスター3,000枚、学習リーフレット20,000部、啓発グッズ（エコバッグ3,500枚、ステッカー 3,000枚、シャープペンシル4,000本等）

(3) 竹島資料室の展示内容等の充実

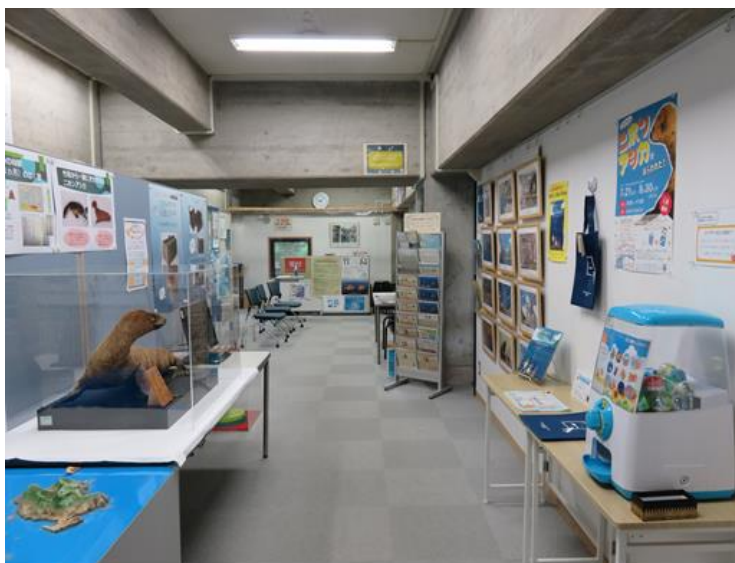
- ・出張竹島資料室の開催（7月：浜田市、8月：大田市）

竹島資料室展示資料の出張展示を県内2会場で実施しました。



- ・夏季企画展示の開催（7月21日～8月30日）

夏休み期間中に子供たちに向けた企画展示を実施しました。



- 竹島の日記念特別展示の開催（1月12日～3月28日）
「日韓の主張から考える竹島問題」をテーマに特別展示を実施しました。
- 学生解説員の委嘱（8月27日～2月28日）
竹島問題の啓発に資するため、大学生4人を学生解説員として委嘱し、10月2日から2月26日までの毎週土曜、竹島資料室に来室された希望者に竹島問題に係るスライドを使い解説を行いました



(8) 森林の保全及び整備に関する事業

【対象事業】

県民の森整備費（森林林業体験活動推進事業）

【事業の成果及び事業費】

県民の森整備費（森林林業体験活動推進事業）

景観維持・安全確保・快適利用のため、県民の森の環境整備を実施しました。

事業費：4,022千円

県民参加の森づくり活動の一環として、気軽に参加できる講座を充実させ、県民が森林や自然とふれあう機会を創出し、県民の森林や林業に対する理解を深め、水を育む緑豊かな森を次世代に引き継いでいく県民意識の醸造を図りました。

令和3年度は12回の県民の森ふれあい講座を開催し、登山や木琴作り等に延べ217人の参加がありました。

また、森林林業体験活動のフィールドとなる県民の森において、枯損木の除去や遊歩道の整備などの環境整備を行い、景観の維持、訪れた利用者の安全確保と快適利用を図りました。



(9) 防災対策の推進に関する事業

【対象事業】

地域防災人材育成研修事業

【事業の成果及び事業費】

地域防災人材育成研修事業

自主防災組織の結成及び活動促進につながる人材育成研修を実施しました。

事業費：997千円

地域の防災力向上に向けて、自主防災組織の結成及び活動促進、防災意識向上につながる研修を実施、及び防災啓発チラシ・リーフレットの作成を行いました。

(1) 防災安全講演会（浜田市他）

- 研修名
地震・津波から命を守る
～危機に備えるために求められる主体的な自助・共助～
- 講師
東京大学大学院情報学環特任教授／日本災害情報学会会長
片田 敏孝 氏 ※リモートによる講演
- 日時・場所
令和3年10月23日 13:30～15:00
浜田市立中央図書館、金城支所、旭支所、弥栄会館、
三隅まちづくりセンター、奥出雲町役場、美郷町役場
- 参加人数
合計 117名



(2) 地区防災計画策定支援研修（出雲市・美郷町）

• 研修名

地区防災計画策定支援研修

• 講師

跡見学園女子大学 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授

鍵屋 一 氏 ※リモートによる講義

• 日時・場所

令和3年12月19日（日）13時30分～15時00分

ラピタウエディングパレス（出雲市）みさと館、大和支所（美郷町）

• 参加人数

合計 45名



(3) 防災啓発ポスター・チラシの作成

・防災啓発ポスター

「令和3年5月20日から警戒レベル4避難指示で必ず避難！避難勧告は廃止です」

島根県
令和3年5月20日から
警戒レベル4 避難指示で必ず避難
避難勧告は廃止です

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	緊急安全確保※1	災害発生情報 (発生を察知したときに発令)
4	避難指示※2	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	高齢者等避難※3	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を把握し把握できないもの等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報又はありまします。
 ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。
 ※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ適切な行動を促すため、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。警戒レベル5緊急安全確保の発令を持ってはいけません！

避難勧告は廃止されます。これからは、警戒レベル4避難指示で危険な場所から全員避難しましょう。

避難に時間のかかる高齢者や障害のある人は、警戒レベル3高齢者等避難で危険な場所から避難しましょう。

島根県防災部防災危機管理課 詳細はHPをご覧ください

・防災啓発チラシ

「風水害・土砂災害からあなたと大切な人の命を守るために」

風水害・土砂災害からあなたと大切な人の命を守るために
— 警戒レベル4 避難指示までに必ず避難!! —

警戒レベル3 高齢者等避難

ご高齢の方や障がいのある方など、避難に時間を要する人やその支援者は危険な場所から避難。その他の人も避難の準備を整え、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

(10) 移住・定住の促進に関する事業

【対象事業】

ふるさと島根定住推進事業

【事業の成果及び事業費】

ふるさと島根定住推進事業

ふるさと島根定住財団を中心に、市町村や関係団体と連携し、地域別、年代別、性別など属性に応じたU・Iターンフェアを実施しました。

事業費：52,795千円

(1) 移住・定住の促進を図るため、Uターン・Iターン希望者に対して相談・人材誘致のために大規模バーチャルイベント「しまね移住ワンダーランド」を実施しました。

【開催日】令和3年10月30日(土)・31日(日)

【イベントサイト来訪ユーザー数】1,038人



(2) 島根県の8市町をオンライン上で訪問するツアー型移住交流イベント「しまね移住体感オンラインツアー」を実施しました。

【開催市町(参加者数)】

雲南市(21名)、益田市(33名)、大田市(29名)、出雲市(44名)、川本町(58名)、浜田市(34名)、奥出雲町(50名)、松江市(90名)



(3) Uターンを希望する女子向け、20~30代向けイベントを開催しました。

「Shimane Beauty Caravanティータイム編」

【開催日】令和3年5月15日（土）

【参加者数】61名



「Shimane Beauty Caravanセルフケア編」

【開催日】令和3年6月18日（金）

【参加者数】67名



「アイス片手にしまねを旅する」

【開催日】令和3年8月1日（日）

【参加者数】83名



「はじめてのゆるソロキャンプinしまね」

【開催日】 令和3年9月26日（日）

【参加者数】 44名



「しまねでゆるキャンプvol.2～自然で楽しむ焚き火とシシ肉～」

【開催日】 令和3年11月27日（土）

【参加者数】 16名



(11) 結婚・出産・子育ての支援に関する事業

【対象事業】

しまね保育実習等旅費支援事業

【事業の成果及び事業費】

しまね保育実習等旅費支援事業

県内での就職を促すため、県外の学生が県内保育所等で実習する場合、旅費の一部を助成しました。

事業費：593千円

卒業後に島根県内での就職を促すとともに、ひいては子どもを安心して育てることができる環境整備を目的に、平成29年5月から事業を開始しました。

主に岡山県、広島県など中国地方を中心に、近畿や九州、関東地方にある指定保育士養成施設の学生32名に対し、島根県内の保育所等で実施した保育実習、就業体験及びボランティアにかかる旅費を助成しました。

旅費を助成した32名のうち、令和4年3月に卒業の学生は、23名でした。そのうち進路先が判明している18名のうち、16名の方が島根県内の保育所等に就職が決定し、現在各保育所等で保育士として活躍されています。

【事業内容】

- 旅費助成：32名
- 事業啓発用チラシ作成、郵送